

## ありがとう 大沢

5年 Y・Aさん

この本を読んで、最初に思いうかべたのは五十年以内に起こるとされている南海トラフ巨大地震のことだ。おそらく、私は生きているだろう。もしかしたら明日いや今起こるかもしれない。他にも私の世代には、人間の引き起こしたことも含め、数々の困難が待っている。正直大人になりたくない。永遠の十才でいたかった。でも、この本、大沢の人たちから、たくさんのことを教えてもらった。

一つ目は、大沢の人々の地元への愛だ。とても新しい私の学校と異なり、大沢小学校は歴史がある。それをつないでいこうとする思いが伝わった。私も故郷が好きだ。津波が来たら流されてしまうのだろうか。絶対にイヤだ。でも実際に体験した大沢の人々は、早く復興し、きれいな大沢に戻るため協力した。そして、地域の人に喜んでもらうと新聞を作った。新聞は絵も字もとても丁寧に、キャッチコピーからは私も元気をもらえた。そんな新聞だったから、たくさんのお賞を受賞できたのだろう。

二つ目は、大沢の人々のやさしい心だ。救助を手伝ったり、ごはんを作ったりしてくれた大人たちももちろんだが、子供たちまでもが自分の意志で働いていた。特に驚いたのはトイレソウジだ。私には震災で辛いときに、まわりのためにどんなことでもやろうとする強い心はあるだろうか。自分のことよりも人のことを優先して考え、実行に移す。大沢の人たちにはそのような強い思いやりがあると感じた。

三つ目は感謝の気もちだ。様々な人が様々な場所で様々なことを応えんしてくれた。このような人たちの思いに感謝し、心を動かされて、子供たちは自分にもできることはないか、恩返しはできないかと考え行動した。そしてそれは何人もの大人たちのげみになっただろう。大人になった執行部のみなさんの新聞からは、あのとき生きていられて、今もふつうに生活できていること、また、そのために力を尽くしてくれた人たちへの感謝が溢れていた。

この本から、私は何をやるときも、少しずつの努力やがんばりが、相手への思いやりや強い心が、そして何より感謝の気もちをもつことが大切だと学んだ。大人も子供も関係なく、自分のできる小さなことをやると、大きな変化がある。私の故郷も大沢のように、地元の人たちが守りたいと思える、心を一つにできる大切な場所にしていきたい。

そして最後に、震災にあつたみなさんの心は私よりも強く、たくさんの方の勇氣と力をもらえた。私は決して負けない。あきらめない。もう怖くはない。ずっと先で待っている光輝く未来へ向かってつき進む。困難にも迷わず挑戦する。私の海は光っている。

大沢のみなさん ありがとう